

令和7年度小学校教科担任制実施報告書(中学年型(第4学年))

学校名
江田島市立鹿川小学校

1 学校の概要

(1) 学校の学級数

	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
学級数	1	1	1	1	1	1	6	3	9

(2) 兼務校の学級数

兼務校名	通常学級							特別支援学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計		
江田島市立大古小学校	1	1	1	1	1	1	6	2	8
学級数	1	1	1	1	1	1	6	2	8

兼務する場合の移動に要する時間(分/週当たり)	100 分
-------------------------	-------

2 加配教員が専科指導を行う教科及び週当たりの担当授業時数

(1) 第4学年の指定教科等

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
算数	4	1	5	5	
理科	4	1	3	3	
外国語活動	4	1	1	1	
算数	4	1	5	5	大古小
理科	4	1	3	3	大古小
外国語活動	4	1	1	1	大古小
授業時数 計				18	(a)

(2) その他

指導教科等名	指導学年	指導学級数	1学級当たり時数(週)	授業時数(週)	兼務校での実施
				0	
授業時数 計				0	(b)
授業時数 合計				18	(a)+(b)

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

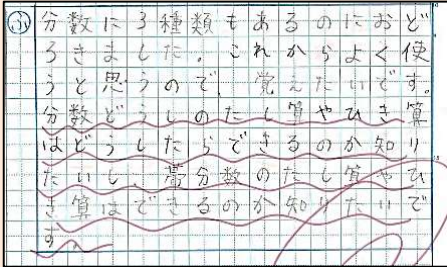
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	体育	道徳	外国語活動	総合	特別活動
週当たり標準授業時数	7		2.6	5	3	1.7	1.7	3	1	1	2	1
4年 1組 (担任: A)	A	A	A	推進	推進	専科	A	A	A	推進	A	A
大古小 4年 1組 (担任: B)	B	B	B	推進	推進	専科	専科	B	B	推進	B	B

4 4学年担任が指導を行う教科等及び週当たり授業時数

学年・学級	児童数(人)	担任	担任する学級以外の授業時数(週当たり)				担任する学級の授業時数	授業時数の合計
			指導学年・学級	教科等名	時数	時数計(c)		
4-1	18	A	特支(自・情)	算数	5	5	18.3	23.3
大古小 4-1	28	B	3-1	国語	5	5	16.6	21.6

## 5 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

〈効果のあった取組〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとに学習の手引きを配付し、児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。</li> <li>・2校兼務を生かし、教材の活用や授業のブラッシュアップを行った。</li> <li>・児童の気付きや振り返りを生かすことで、児童の学びに向かう力を育成する授業展開を意識した。</li> </ul>
	
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属校と兼務校の4年算数、理科、外国語活動の授業を教科担任制推進教員が受け持つことで、学級担任の担当授業時数の軽減を図った。</li> <li>・時間割の編成を工夫し、第4学年担任に毎日1コマ以上空きができるようにした。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、学級通信等で教科担任制の取組を発信し、保護者理解を促進した。</li> </ul>



〈成果〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「自分は、算数の学習に進んで取り組んでいる。」の質問に対する肯定的評価の割合は、5月76%、10月83%、1月89%だった。</li> <li>・単元テストの【知識・技能】の平均到達度…算数85.3%、理科91.9%。平均到達度50%未満の児童の割合は0%だった。</li> <li>・標準学力調査の平均正答率は、全国平均正答率と比べ、算数基礎+9.5ポイント、算数活用+8.4ポイント、理科基礎+1.2ポイント、理科活用+8.5ポイントだった。</li> <li>・児童アンケート「外国語活動の授業が好きです。」の質問に対する肯定的評価の割合は、94.4%だった。</li> <li>・児童アンケート「教科担任制で学ぶことで、勉強の内容がよくわかるようになった。」の質問に対する肯定的評価の割合は、94.4%だった。</li> <li>・児童アンケート「教科担任制の授業があつてよかった。」の質問に対する肯定的評価の割合は、94.4%だった。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年担任へのアンケートにおいて、担当教科の教材研究をより一層深めることができたとの回答があった。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者へのアンケートにおいて、「学校だよりや学級通信等で、子どもの様子がよく分かる」の質問に対する肯定的回答の割合は、上半期95%、下半期97%だった。</li> </ul>

〈課題〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は、兼務校での補充学習の時間を確保することが難しかった。</li> <li>・単元テストの【思考・判断・表現】の平均到達度…算数78.4%、平均到達度50%未満の児童の割合は5%だった。</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4学年担任の時間外勤務時間を令和6年度から月平均5時間以上減らすことを目標としていたが、あまり変わらなかった。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や学級閉鎖等で推進教員の担当授業ができなくなった場合、2校兼務のスケジュール内で新たに時数を確保することが難しく、授業の進度が遅れたり、一時的に時数が不足したりすることがあった。</li> </ul>



〈対策〉	
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期から、兼務校での勤務を週2日、4校時以降からに変更し、給食準備中や放課後に補充学習をすることができるようにした。</li> <li>・平均到達度が目標の80%以上に達していない単元を中心に復習し、既習事項の理解を深める。</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進教員が第4学年担任と調整を図り、時間割の変更をすることで授業時数を確保した。 例)担任が「国語」をする時間を「算数」に変更して、推進教員が授業を行った。</li> </ul>